

第4学年 国語科学習指導案

日時：平成24年11月16日（金）

指導者：1組 八幡 美奈子

1 単元名 科学読み物を要約し、「発見」「おどろき」をリーフレットでしようかいしよう

2 教材名

(1) 中核教材名 「ウナギのなぞを追って」 (光村図書 4年下)

(2) 補助教材名 ① リーフレットのモデル「空とぶメダカ」(ポプラ社) (指導者作成)

② ブックリストA (先行読書) 別紙参照40冊

③ ブックリストB (並行読書)

「森のスケーターヤマネ」(文研出版)

「カクトアルキのなぞ」(新日本出版社)

「ありに知恵はあるのか」(偕成社)

「風にのれ!アホウドリ」(フレーベル館)

「わたしのカラス研究」(さえら書房)

「ウミガメの旅 太平洋2万キロ」(ポプラ社)

「空とぶメダカ」(ポプラ社)

④ 個々の読書記録カード, 読書アンケート

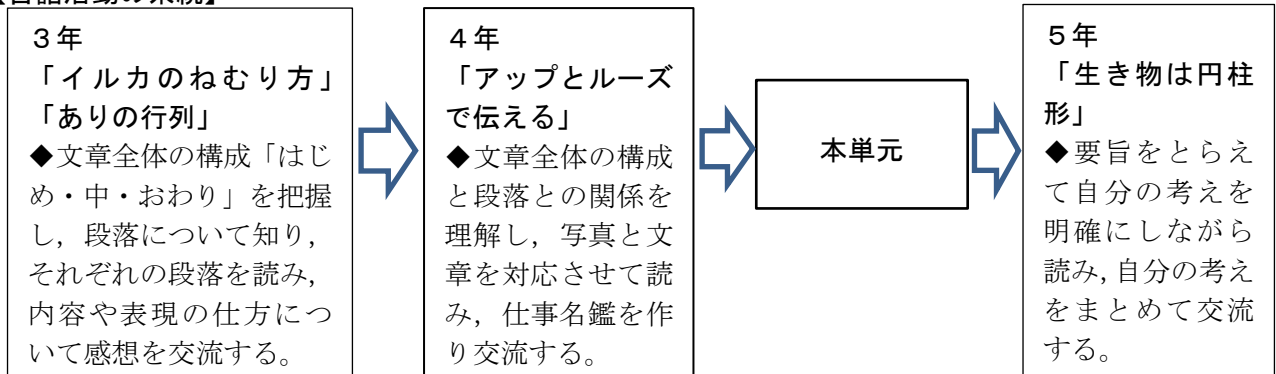
3 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動 (第3・4年 言語活動例 C工)

紹介する科学読み物を選び, リーフレットで紹介すること

- ・科学読み物から得られる発見や驚きを紹介したい内容とし, リーフレットで表現することで, 何度も繰り返し本を読み, 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え, 文章を読むことができる。
- ・自分が紹介したいことは何かという観点で, 紹介に必要な部分を選択・整理し, 関連付けることによって, 限られた字数の中で引用や要約する力を付けることができる。
- ・自分が一番伝えたい発見や驚きを300~400字に要約し, その内容に関わる写真, 図, 解説など関連する内容で構成することにより, リーフレット全体で本の魅力を伝えることができる。

【言語活動の系統】



4 単元について

(1) 児童について

児童は、4年上「動いて、考えて、また動く」で、自分の考えを強く読み手に印象付けるための説明的文章の構成を理解したり、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読んだりする学習をしてきた。また、4年下「アップとルーズで伝える」では、中心となる語や文に着目して段落相互の関係をとらえたり、文章と写真とを照応させたりしながら読み、メディア資料の使い分けの目的や効果について考え、対比的な説明のよさに気付くことができた。これらの学習を通して、児童は段落相互の関係や事実と意見の関係について考えながら読む力を付けてきている。また、相手や目的に応じて、情報の選び方や表現方法が異なっていることに気付き、自分が表現するとき役に立つようとする児童も増えてきている。

紹介したい本を取り上げて説明する言語活動は、三年生の「三年とうげ」で、お気に入りの民話をパネルブックを基に、4年生の「一つの花」では、一番伝えたい戦争物語をコラージュポスター・音読・BGMを基に、根拠をはっきりさせながら紹介する学習を経験している。これまでの学習を通して、紹介の理由を説明するために、必要な文や語句を書き抜くことはできるようになってきている。しかし、目的に応じて要約したり、引用したりする力は十分とはいえない。

読書については、本校の「読書に関するアンケート」を見ると9割の児童が本を読むことが好き、楽しいと答えており、読書に対して前向きな気持ちをもっている。また、昨年度よりも読書冊数も増えてきている。しかし、ジャンルに偏りが見られ、今回の単元で学習する科学読み物については、科学好きの児童以外はほとんど読んでいない実態がある。読まない理由は、「他に読みたい本があるから」「難しそうだから」「興味がもてないから」などであった。このことから、ほとんどの児童は、これまでに科学読み物のもつおもしろさ、楽しさに触れる経験が少なかったことが推測される。

本単元では、科学読み物を多読し、自分のお気に入りの科学読み物を選書し、紹介する言語活動を通して研究そのものに驚きをもったり、新しい発見をしたり、科学者自身や科学的なものの方見方に興味をもったりすることができ、読書のジャンルが広がる児童が増えることが期待される。

(2) 教材について

本単元は、科学読み物で教材を構成する。中核教材「ウナギのなぞを追って」は、長期にわたるウナギの産卵場所を探る調査報告文である。調査過程で明らかになる事実とそれに対する考察のおもしろさ、長い年月をかけて地道な努力を重ねる研究者の姿勢など、多様な興味に答える文章である。このような特長から、本中核教材は、児童が興味をもったところを中心に、内容を要約して紹介する言語活動に適した教材である、と考えることができる。

補助教材①は、指導者が作成したもので、単元のゴールに見通しをもたせるためのものである。また、リーフレットを作成する際のモデルとしても活用する。課外の読書紹介で、リーフレットを基に紹介し、科学読み物に関心をもたせ、本単元の学習活動につなげるものである。

補助教材②は、先行読書のための40冊である。写真や絵、図などが豊富で目を引くものなど、科学読み物に興味をもてるような本を選定した。科学読み物のおもしろさや「科学的思考」に触れるきっかけとしたい。

補助教材③は、中村滝男氏の「空とぶメダカ」の他、並行読書のための7冊である。選定基準は、研究者と筆者が同一人物であること、科学的思考語彙が使われていて仮説を基に実験や観察が繰り返されていることの2点である。三次で児童が紹介する本は、この7冊から選書する。目的に応じて本を選択したり、文章を要約・引用する力を培う教材として活用したい。

(3) 指導に当たって

本単元で取り上げるのは、科学読み物である。「ウナギのなぞを追って」を中核教材として、読書紹介を行う。科学読み物から得られる新しい科学的な知識の発見や今まで知らなかったことを知る楽しさや思ってもみなかったことに気付かされる驚きを読みの視点にし、リーフレットにまとめ紹介する。

リーフレットは、一枚物であり、伝えたいことを大きく配置して詳しく書くところと、簡潔に書くところを区別して書いたり、絵や写真、図などを有効に活用して書いたりすることができる。

また、折り方を工夫することで開いていく楽しさを味わうことができ、伝えたい内容に順序性をもたせることもできる。リーフレットは、紹介の中心である発見や驚きを伝えるためのキャッチコピー、要約文、それに関連する解説、写真、絵、図などで構成し、自分が紹介したい科学読み物のおもしろさを説明するのに適した形式である。また、リーフレットを書く過程で、伝えたい内容を限られた字数制限の中でまとめ、紹介に必要な部分を引用、要約するという必然性も出てくる。そのため本を何度も読み返し、伝えたい内容の中心となる部分をとらえ、引用や要約をする力を付けるのにふさわしいと考え、本言語活動を設定した。

児童は、日常活動で継続して本の紹介を行っている。興味をもった児童は、紹介された本を読んで感想カードを書き、紹介してくれた児童と本の交流をするようにしている。第一次にはいる前に、「先生のおすすめの一冊」として、指導者がリーフレットのモデルを基に読書紹介を行う。それを受けて、科学読み物に興味をもたせるためにブックリストAを作り、先行読書をする。

第一次では、これまでの読書生活を振り返る。また、先行読書の本の内容や関連する自分の経験について話し合い、新たな発見や驚きがある科学読み物のおもしろさに気付かせていく。紹介された本を読んで、交流する活動を通して、これからの学習に児童が興味や見通しがもてるようにし、自分の紹介のイメージをふくらませるきっかけとなるようにする。そして、自分たちが読書紹介をするために必要な学習内容は何かを整理し学習計画を立てるようにする。

第二次では、「ウナギのなぞを追って」を読み、そこから得られる発見や驚きを読みの視点とし、自分が一番伝えたい発見や驚きを整理し、自分の説明の中心となる内容を制限された字数の中で（300～400字）要約をさせる。それを基に、キャッチコピー、関連する内容、解説、写真、絵、図などでリーフレットを構成していく。科学的思考語彙にも着目させ、理科などの他教科においても活用できることを意識させ、日常的な活用につなげたい。

ワークシートの作成に関しては、課題を解決していくために、文章全体を1枚で見ることのできるワークシートを用意し、視覚的に文章構成や表現の仕方を捉えられるようにしたり、本の内容を自分で小見出しを付け整理し、内容を捉えることで自分の伝えたい事柄を選択できるようにしたり、児童の思考の流れに沿ったものになるよう留意した。

また、単位時間の中で、自分の考えをもたせ、それを交流するためのグループ学習の時間を設けた。交流することを通して、自分の考えを修正したり、広げたり深めたりし、自分の考えを明確にすることをねらったものである。また、終末では必ず自己評価し、自分の学びを確認できるようにした。相互評価では、よいところを認め合い、もっとよくなるにはどうしたらよいかアドバイスするようにし、次時への意欲を喚起するようにした。

第三次では、自分の選んだ本でリーフレットを作る。同じ本を選んだ者同士でグループを作り、「ウナギのなぞを追って」で使用したワークシートや学習の手引きを活用し、自力で学習を進めるようにさせる。完成したリーフレットは、学級で感想を交流する。「ほめほめカード」を活用して、互いによいところを認め合えるようにする。また、「もっとよくなれアドバイスカード」を基にアドバイスをし合うようにする。

本の紹介は、主に5年生児童を対象に行う。双方向の紹介活動にしていくために、5年生のペアの児童にも紹介された本を読んでもらい、本の感想とリーフレットの書きぶりについて、書いた本人に感想を寄せてもらうようにする。そして、その本のおもしろさについて語り合う場を設ける。全校に向けても感想カードを用意し、書いた本人に感想を寄せてもらうようにする。サイエンスストリートから科学読み物のおもしろさ、楽しさを発信していくようにしたい。

5 単元を通して育てたい読書力

B 本や文、文章、絵、図、表、グラフ等のテキストを読解する力

6 単元の指導目標

- 紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなよさに気付いたりしながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ◎自分の紹介したい内容を中心に、紹介したい理由をリーフレットで説明するために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約したり引用したりすることができる。(C読むこと エ)
- 自分の紹介したい内容を中心に、自分の考えをリーフレットで説明するために、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。(C読むこと イ)
- 指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ク))

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなよさに気付いたりしながら読もうとしている。	・紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしている。(エ) ・紹介したい内容やその理由を説明するために、中心となる語や文をとらえ、事実と意見との関係などを考えて本や文章を読んでいる。(イ)	・指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。(イ(ク))

8 指導計画 (C読むこと 11時間)

次	時	○目標 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価 (方法)	テキスト
一	課外	・指導者作成のリーフレットのモデルを基に「空とぶめだか」の読書紹介をする。 ・科学読み物のブックリストを作る。 ・ブックリストを基に先行読書をする。	○日常活動で行っている読書紹介の中で、「先生のおすすめの一冊」ということで紹介する。 ○通常の活動は、興味をもった児童が読後の感想カードを書いて紹介者と交流しているが、今回は全員が読後の感想カードを書くようにする。 ○交流コーナーを設置し、感想カードは貼り出していつでも見ることができるようにする。 ○読書紹介をきっかけに、科学読み物に興味をもたせるため、図書館司書、読書活動支援員の協力を得て自分の読んでみたい科学読み物を図書館から選定させる。 ○課外での先行読書をきっかけに科学読み物を読もうという機運を高め、日常的に科学読み物のおもしろさを交流できるようにしておく。	ブックリストA (先行読書)
	1	○これまでの読書生活を振り返り、既有知識を確認し、この単元でどんな学習が必要かを考え、学習の見通しをもつことができる。	○指導者紹介の科学読み物について、感想を交流したり、他の科学読み物を紹介したりすることで、科学読み物に関心をもたせる。 ○児童が知っている既習教材での発見や驚きを想起させ、科学読み物には、新しい発見や驚きがあることに気付かせる。 ○自分の読書カード(記録)の「科学読み物」	ブックリストB (必読図書) →三次の言語活動に向けて

一	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者紹介の科学読み物について感想カードを基に、その内容や関連する自分の経験や既習教材、これまでに読んだ科学読み物について話し合い、科学読み物のおもしろさを交流する。 ・自分の読書記録を振り返る。 ・自分の読書記録やアンケート結果を基に、科学読み物があまり読まれない理由やおもしろさを伝えるためにはどうしたらよいかを考え、学習の見通しをもつ。 ・学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>科学っておもしろい！ サイエンスストリートに自分のおすすめの科学読み物をリーフレットでしょうかいし</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> を設定する。 ・既存の知識・技能と照合し、学習計画を立てる。 	<p>にカラーリングさせ、何冊読んだかを確認させる。</p> <p>○科学読み物があまり読まれていない実態と関連させ、科学読み物のおもしろさを伝えていこうという意欲を高め学習活動に向かう姿勢をつくる。</p> <p>☆学習のゴールをイメージし、学習計画を立てることができたか。</p> <p style="text-align: center;">(観察・ワークシート)</p>	<p>並行読書を開始。</p> <p>「森のスケーター ヤマネ」他6冊</p>
二	<p>○「ウナギのなぞを追って」を読んで、自分の発見や驚きの中心となる語や文を抜き出し、紹介したい内容を交流することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発見や驚きをカードに書き出し、ワークシートに整理する。 ・自分の発見や驚きを交流する。 ・交流を基に、紹介内容を類型化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ウナギの成長 長い年月がかかる調査 なぞがとけていくところ 等 ・科学者として ・筆者の書きぶり </div> <ul style="list-style-type: none"> ・類型化することを通して、発見や驚きは1つではないことを確認する。 	<p>○自分の発見や驚きの中心となる語や文を選択し、抜き出していくようにする。文章が長い場合は、文章そのままではなく、自分なりの言い方で簡潔にまとめるように促す。</p> <p>○カード1枚に一つのことを書き出すようにし、「事実」(水色)と「考え」(ピンク)を色分けさせる。</p> <p>○要約やリーフレットを書くときの参考にできるカードにするため自分の紹介の中心に沿って抜き出していくようにさせる。</p> <p>☆「ウナギのなぞを追って」を読んで、驚きや発見を交流し、自分の感想の中心となる語や文を抜き出すことができたか。</p> <p style="text-align: center;">(ワークシート・発言・振り返り)</p>	<p>中核教材 「ウナギのなぞを追って」 課外 必読図書 ブックリスト B7冊を読む。</p> <p>朝の会などで必読図書の簡単な紹介を行い、読書意欲を喚起していく。</p>
	<p>○「ウナギのなぞを追って」を読んで、文章の構成や書かれている内容をとらえ、自分の発見や驚きの根拠を明確にすることができる。</p>	<p>○紹介リーフレットを書くためには、書かれている内容を正確につかみ、自分の発見や驚きは、どの記述が根拠になっているのかをはっきりとさせていくために、みんなで内容をとらえていくことを確認する。</p>	<p>朝の会などで、紹介したい本が決まった児童を</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容を大きく4つに分け、(初め・中①・中②・終わり)小見出しを付けて整理する。 ・事実と考えの記述に気を付けて、文章と図や写真を対照させながら読む。 ・科学的思考語彙に着目させ、これらの表現は、何を表そうとするときに使うのかを考える。 <p>【科学的思考語彙】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・～はずです。 当然そうあるべきだという意味 ・～かもしれません。 断定はできないが可能性がある ・～ようです。 不確かな、または婉曲な断定 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見の関係に気を付けながら、自分の発見や驚きの中心を見直す。 	<p>○図や写真と対照させながら視覚的に確認するようにし、書かれている内容の理解を確かなものにしていく。</p> <p>○理科の観察・実験や社会科での調査などをまとめるときに使う表現であることを確認し、いずれも、事実を基に予想したり類推したり科学読み物を読む際に着目して読むこと、他教科で活用できることを教える。</p> <p>☆「ウナギのなぞを追って」を読んで、文章構成や内容をとらえ、自分の発見や驚きの根拠を明確にすることができたか。</p> <p>(ワークシート・発言・振り返り)</p>	<p>紹介し、各自2～3冊選んでおくようにさせる。</p>
二	<p>4</p> <p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ウナギのなぞを追って」を読んで、自分の発見や驚きを伝えるための語や文を選択、整理し、それらに関係付けて、「発見・驚き関連シート」を作成し、要約の構成を考慮することができる。 ・これまでに書いたカードを整理し、それらに関連付けながら自分の発見や驚きを説明できるようにする。 ・レイアウトしたものを交流し、伝えたい内容になっているか話し合う。 ・「発見・驚き関連シート」を基に、カードを追加したり、修正したりする。 ・「ウナギのなぞを追って」と自分の選んだ科学読み物の発見・驚きを関連させて考え、共通することを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデルのリーフレットを示し、伝えたいことの中心が要約文として書かれていることに気付かせ、要約の構成を考える見通しをもたせる。 ○発見や驚きを説明できるようにすることを意識させ、それぞれのカードの内容が伝えたいことの中心と合っているか、また、関連している語や文かを考えさせる。 ○必読図書から選んだ自分のお気に入りの科学読み物の発見や驚きについて、「ウナギのなぞを追って」と関わらせながら、共通点を交流し、科学読み物のおもしろさに迫るようにしていく。 <p>☆伝えたいことの中心を意識し、発見・驚き関連シートを作ることができたか。</p> <p>(ワークシート・発言・振り返り)</p>	
	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「発見・驚き関連シート」を基に、文章全体を要約することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習教材で比べ読みをすることで、要約の仕方を自分たちで見付けることができるようにする。要約①は中心となる語や文を接続語を用いて要約、②は言葉を言い換えたり、付け足したりして要約したものである。 	

	<p>【要約の仕方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>要約の目的に沿って</p> <p>①中心となる語や文を書き抜く。</p> <p>②接続語を用いる。</p> <p>③言葉を言い換える。</p> <p>④言葉を付け足す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・関連シートを基に，300～400字程度に要約する。 ・書いたものを交流し，伝えたい内容に沿っているか話し合う。 	<p>○学習の手引き（要約の仕方）を掲示し，「イルカのねむり方」をモデルに説明し，要約の仕方を確かめながらできるようにする。</p> <p>☆伝えたい内容を300～400字に要約することができたか。</p> <p style="text-align: center;">（ワークシート・発言・振り返り）</p>	
<p style="text-align: center;">二 一</p>	<p>○要約文を基に，リーフレットを作ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発見や驚きを表現するためのキャッチコピー（20字以内）を作る。 ・要約文に関連した解説や写真，絵，図，この本を読む人にとって欠かせない知識などを選択し，それを関連付けながらレイアウトする。 ・レイアウトしたものを交流し，伝えたい内容になっているかを検討する。 ・交流を基に修正する。 <p>【リーフレットの内容】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一番伝えたい発見や驚きのキャッチコピー（20字程度） ・要約文（300～400字） ・要約文に出てくる言葉の説明 ・関連する資料 写真、絵、図 等 ・自分の考え 引用を取り入れて ・単元の振り返り（3次11時） </div>	<p>○モデルリーフレットや学習の手引き（キャッチコピーの付け方）を掲示し，キャッチコピーの付け方やリーフレットの作り方を確かめながらできるようにする。</p> <p>○字数を示し，見通しをもたせるようにする。</p> <p>○リーフレットのキャッチコピーなどが，本を読んでいくときの視点になることに気付かせる。</p> <p>○「発見・驚き関連シート」を活用させ，関連情報を選択させる。</p> <p>○よいところは認め合い，もっと相手に伝わるようにするにはどのように工夫したらよいかを観点に沿ってみんなで考えていくようにする。</p> <p>☆紹介したいことを効果的に伝えるキャッチコピーや要約文に関連した解説や写真，絵，図などをレイアウトすることができたか。</p> <p style="text-align: center;">（リーフレット・発言・振り返り）</p>	
<p style="text-align: center;">7</p>	<p>○リーフレットを完成させ，紹介したいことが伝わっているかをアドバイスし合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいこと関連させながら資料を選択してリーフレットを完成させる。 ・書いたリーフレットを読み合い，感想を伝え合う。 ・科学読み物から得られる発見や驚きを視点に紹介したい本を交流する。 	<p>○ワークシートや学習の手引きを基に自力で学習を進めることができるようにする。</p> <p>○紹介したいことが伝わる内容になっているか「ほめほめカード」「もっとよくなるアドバイスカード」で評価し合い，自分の紹介する本でのリーフレット作りの参考にする。</p> <p>○紹介したい本を交流することで迷っている児童も選択できるようにし，三次への意欲を喚起する。</p> <p>☆紹介したいことがよく伝わるように書くことができたか。（リーフレット・ほめほめカード）</p>	<p>ブックリストB</p> <p>ブックリ</p>

三	8	<p>○ブックリストBから選んだ本を発見・驚きの視点に沿って読み、本の内容を整理し、一番伝えたいことを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点に沿って読み、ワークシートに書く。 ・構成を考える。 ・グループで交流し、自分の読みを修正したり、広げたり深めたりする。 	<p>○ワークシートや学習の手引きを基に自力で学習を進めることができるようにする。</p> <p>○伝えたいことがよく分かるような資料を関係付けながら選択させる。</p> <p>☆ワークシートを基に、伝えたいことを選択し、構成を考えることができたか。(ワークシート・振り返り)</p>	ストB 自分が選択した本
	9 ・ 10	<p>○自分の選んだ本の紹介の中心を要約して、関連する資料を選択し、リーフレットをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい内容を200～300字で要約する。 ・キャッチコピーを考える。 ・他の関連する資料を選び、レイアウトを考える。 ・リーフレットを仕上げる。 ・出来上がったリーフレットを読み合い、感想を交流する。(ほめほめカード、アドバイスカード) 	<p>○発見・驚き関連シートや学習の手引きを活用しながら、紹介したい内容が伝わる内容になっているかをチェックしながら、自力で学習を進めることができるようにする。</p> <p>○分量の多い本は、自分が一番伝えたいことが書かれてある周辺に絞って要約させる。</p> <p>☆紹介したいことがよく伝わるように書くことができたか。(リーフレット)</p>	
	課外	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスストリートにリーフレットと紹介する本を掲示する。 ・5年生のペアの児童には、感想カードを書いてもらい、感想を交流する。 ・本の展示コーナーには、感想カードを置いておき、紹介された本を読んだ他の学年の児童にも、書いた本人に感想を伝えてもらうように呼びかける。 	<p>○紹介された本を読んだ他学年の児童に、リーフレットを書いた4年生児童に対して感想を伝えるよう促し、双方向の紹介活動にしていく。</p>	
	11	<p>○これまでの学習を振り返り、単元のまとめをすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの「単元を振り返って」の欄を記入する。 ・単元を通して、新しく習得したことを交流し、まとめる。 ・次に使える技を「使って達人ファイル」に分類、整理する。 	<p>○自分のこれまでの読書生活と関係付けて、自分の読書生活を振り返り、これからの読書生活を広げていけるようにする。</p> <p>○新しく習得したことを、学習の手引きとしてまとめ、いつでも活用できるようにする。</p> <p>○自己評価と友達からの評価を照らし合わせ、自分が付けた力と今後の課題をまとめさせる。</p> <p>☆単元を振り返り、自分の付けた力と今後の課題を確認することができたか。(ワークシート)</p>	
	課外	<ul style="list-style-type: none"> ・科学読み物を、自分たちで集めて作ったブックリストに従って読む。 ・感想カードを寄せてくれた友達や同じ本を読んだ友達と科学読み物のおもしろさについて語り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常読書につなげていく。 ・同じ本を読んだ者同士で感想を交流できるようにする。 	ブックリストA

9 本時の指導【4/11】

(1) 本時の目標

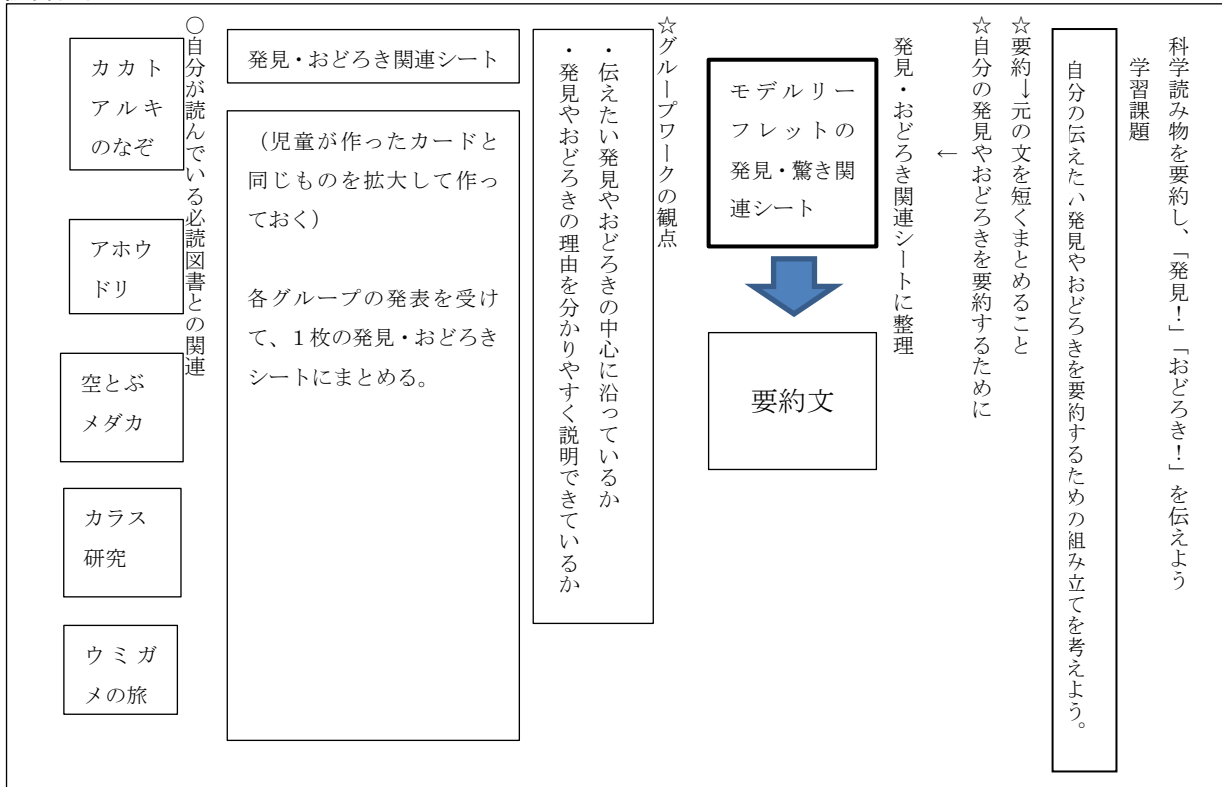
自分の発見や驚きを伝える要約にするために、根拠となる語や文を選択して要約の構成を考えることができる。

(2) 本時の展開

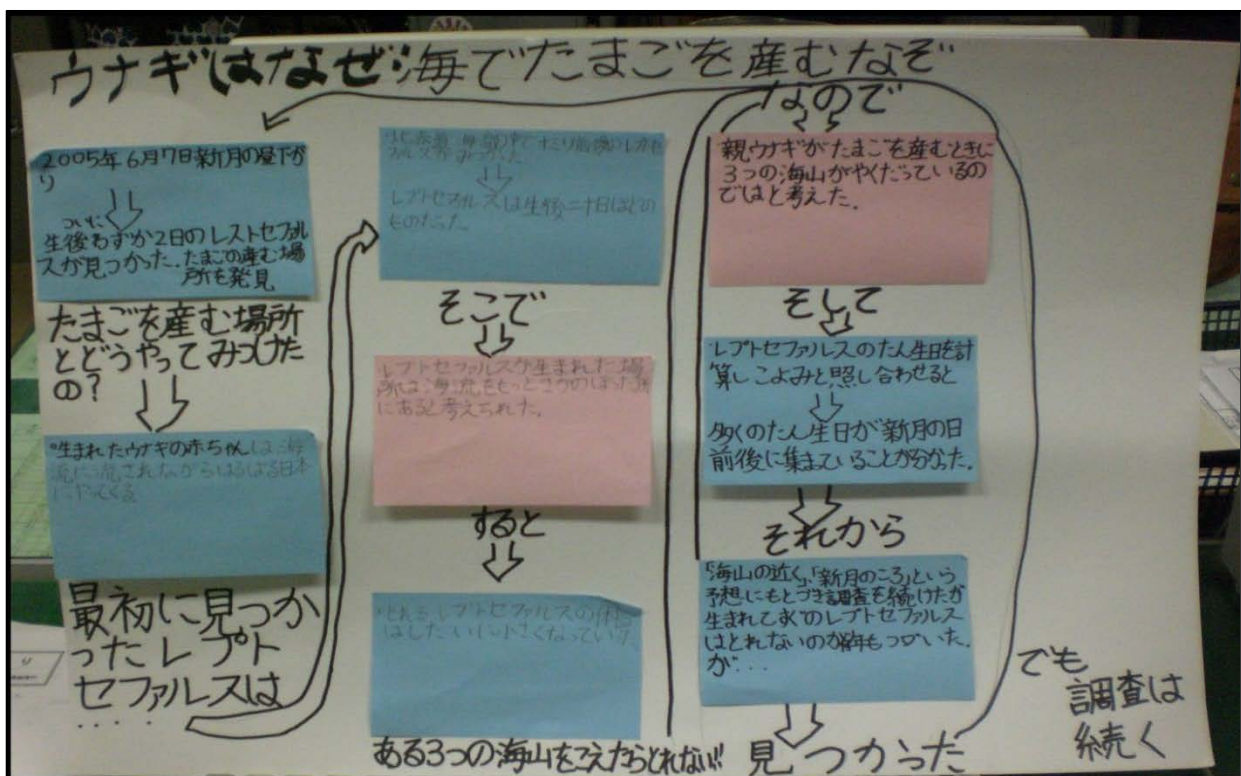
階	学 習 活 動	◎重要思考・言語操作 ○留意事項 ☆支援
導入 (三分)	1 前時の学習内容を確認する。 2 本時の学習課題をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 学習課題 自分の発見や驚きを伝える要約にするための組立てを考えよう。 </div> 3 学習の進め方を確認する。	◎要約するために、自分の発見や驚きの中心を明確にし、大事な語や文を見直したことを確認する。 ○学習の内容や流れの見通しをもたせる。
展開 (三十五分)	4 選択したカードを基に、それらを関連付けながら発見・驚き関連シートを作る。 (個) ・これまでに書いたカードを整理し、必要なカードを選択し、それらを関連付けながら、自分の発見や驚きを説明できるようにする。 5 発見・驚き関連シートを見せ合い、伝えたい内容になっているか話し合う。 (グループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 交流の観点 ・伝えたい発見や驚きの中心に沿っているか。 ・発見や驚きの理由を分かりやすく説明できているか。 </div> 6 各グループの「発見・驚き関連シート」を基にした構成を交流する。(全体) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 交流の観点 ・伝えたい発見や驚きの中心に沿っているか ・各グループの発見や驚きの根拠に共通点はあるか ・自分の読んでいる科学読み物と関連させ、共通点はあるか </div>	○モデルのリーフレットを作ったときの、発見・驚きカードを提示し、伝えたいことの中心からずれないように、選択したカードを関連付けていくようにさせる。 ○同じ発見や驚きの児童でグルーピングし、交流の観点に沿って話し合わせる。 ○要約する字数を示し、見通しをもたせる。 ◎2つの観点を示し、観点に沿って検討させ、自分たちの発見や驚きを、根拠を基に説明できるようにするために、必要なカードを確認したり、カードを追加・修正したりさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 評価 自分の発見や驚きを説明するために、根拠となる語や文を選択し、構成を考えたことができたか。(発見・要約関連シート) ☆これまでに書き出した語や文を基に、事実(水色のカード)を時系列でつなげ、それに関係する筆者の考え(ピンクのカード)を付け足していくことを対話で明確にさせ、カードをつなげてみるように促す。 </div> ○それぞれの内容が伝えたいことの中心となっているか、また、関連している語や文が根拠として妥当かを吟味する。 ○必読図書から選んだ自分のお気に入りの科学読み物の発見や驚きについて「ウナギのなぞを追って」と関わらせながら、共通することを交流し、科学読み物のおもしろさに迫るようにしていく。

終末 (七分)	7 本時の学習の振り返りをする。	○構成ができたことで要約への見通しがもてたこと, 科学読み物のおもしろさが広がったことを確認する。
	8 次時の学習内容をつかむ。	○リーフレットの中心となる要約文を書くことを確認し意欲を喚起する。

10 板書計画



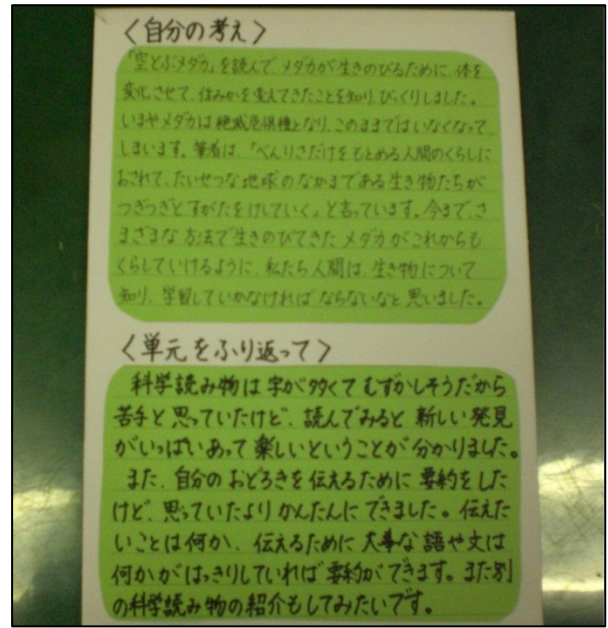
【発見・おどろき関連シート】



【「空とぶメダカ」リーフレット表紙】



【「空とぶメダカ」リーフレット裏】



【「空とぶメダカ」リーフレット見開き】

